

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語	65人
② 算数	65人
③ 理科	65人

5 留意事項

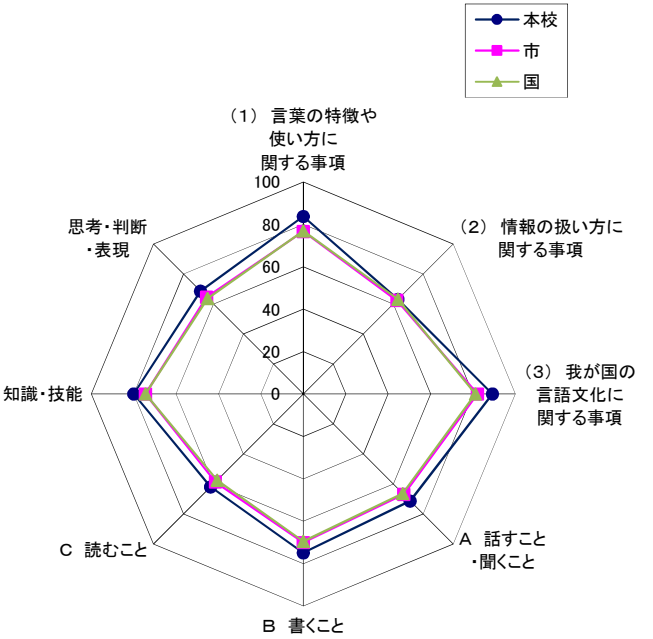
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	83.8	76.7	76.9
	(2) 情報の扱いに関する事項	63.1	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	89.2	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	71.3	67.0	66.3
	B 書くこと	74.9	70.0	69.5
	C 読むこと	61.9	58.6	57.5
観点	知識・技能	80.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	68.6	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

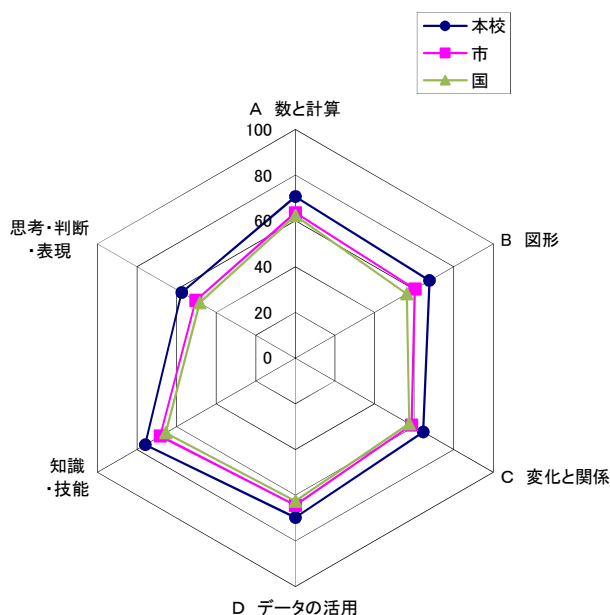
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	○「言葉の特徴や使いに関する事項」の平均正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ○●「学年別漢字配当表」に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率を11ポイントと大きく上回っているものがある一方、無解答率が10.8%で、全国の無解答率を3.6ポイント上回っているものがある。	・今後も国語の学習の中で、学習した漢字を復習する時間を取り入れ、文章の中で漢字を使うように声掛けを行ったりするとともに、読書を推奨し、文章を読む機会を増やして言語の使い方に慣れ親しませていく。
(2) 情報の扱いに関する事項	○「情報の扱いに関する事項」の平均正答率は、全国や市の平均正答率と同等である。 ○「情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率と同等である。	・図や表などからも情報と情報の関係を読み取ることができるように、国語以外の教科でも積極的に情報を読み取ったり、情報と情報を関連付けたりする活動を取り入れ、定着を図る。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ○「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率を8ポイント上回っている。	・今後もファミリー読書を推進し、読書の習慣付けを図っていき。また、朝の活動の読書の時間やわくわくブック隊による読み聞かせの時間を通して、読書の推進を行う。
A 話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ○「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率を8.2ポイントと大きく上回っている。	・言葉の多様性を広げることができるように、様々な文章や話し方から、新しい表現や言葉のニュアンスを学ぶ機会を設け、自分の考えをより豊かに伝えるための言葉を増やすことを目指していく。 ・一つのテーマについて、様々な立場から意見を出し合う場を設ける。他者の考えに触れることで、自分の視野を広げ、考えを深める経験を積み、多角的な視点をもつことができるようにする。
B 書くこと	○「書くこと」の平均正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。 ○「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率を5.9ポイント上回っている。	・文章の正確性を高めるために、書き上げた文章を、時間を置いて読み直し、より分かりやすい文章に修正する練習をしたり、他者に読んでもらい、客観的な視点から自分の文章を見直したりする機会を設ける。 ・今後も授業の中で文章を書く機会を多く取り入れ、目的を意識して書く活動を設定したりするなど、読者がいることを想定し、読み手に伝わる文章が書けるように指導していく。
C 読むこと	○「読むこと」の平均正答率は、全国や市の平均正答率をやや上回っている。 ●4つの設問の内2つの設問で正答率が50%を下回っている。 ○「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率を11.4ポイント上回っている。	・文章全体の構成を理解する力を高めるために、要点やキーワード、接続語に注目し、文章の構造を分析する練習を行う。また、授業の中で文章全体の流れや、各段落の役割を意識させることができるようにする。 ・語彙の理解力を向上させるために、読書活動を通して、様々なジャンルの文章を読み、異なる文脈で使われる言葉の意味やニュアンスを学ぶ機会を設ける。辞書だけでなく、実際の用例から言葉の理解を深めることを促すようにする。

宇都宮市立城東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.6	63.6	62.3
	B 図形	67.7	60.4	56.2
	C 測定	63.1	56.9	54.8
	C 変化と関係	64.6	58.6	57.5
	D データの活用	69.8	64.4	62.6
観点	知識・技能	75.9	68.3	65.5
	思考・判断・表現	57.4	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

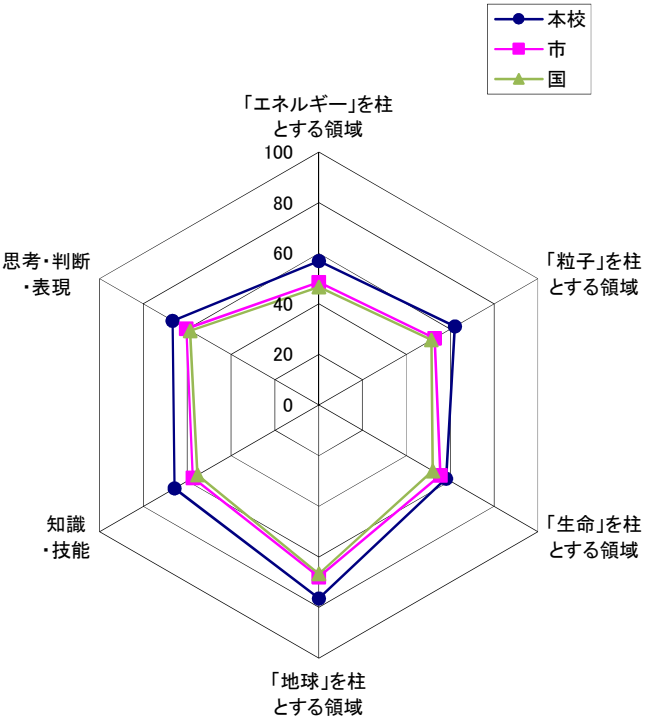
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○「数と計算」の平均正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○ほとんどの設問で、全国の平均正答率を上回っている。特に、「小数の加法について数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉える」設問では、全国の平均正答率を12.1ポイント上回っている。</p> <p>●「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率をやや下回った。問題文を読み取り、立式に必要な情報を選択することに課題が見られる。</p>	<p>・基礎的な計算力の定着が見られるので、朝の学習や授業等で繰り返し計算練習を行い、より正確な計算技能が身に付くよう指導していく。</p> <p>・文章問題を解く際は、問題の内容を整理するために図や言葉で表現する活動を取り入れ、論理的思考力が向上する指導を心掛けていく。</p>
B 図形	<p>○「図形」の平均正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率を14.4ポイント上回っている。</p> <p>○●「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率を大きく上回っているが、52.3%と低い。</p>	<p>・図形を構成する要素や性質等については、ICT教材を用いて視覚的・体験的に捉えて理解が深められるように指導していく。</p> <p>・図形の面積の求め方や作図については、式や言葉を用いて記述ができるよう、図形を構成する要素に順序立てて着目させ、段階的な指導をしていく。</p>
C 測定	<p>○「測定」の平均正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○「はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率を上回っている。</p>	<p>・量についての感覚が豊かになるよう、数学的活動を意図的に授業に取り入れ、身の回りのものの量とその測定の仕方を日常生活に生かせるように指導する。</p>
C 変化と関係	<p>○「変化と関係」の平均正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○●「伴って変わる二つの数量の關係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率をやや上回っているが、55.4%と低い。</p>	<p>・伴って変わる二つの数量の關係については、比べられる量ともとにする量がしっかり捉えられるように、数値の変化を表にまとめたり、図に表したりして考える場面を多く取り入れ、さらに習熟が図れるように指導していく。</p>
D データの活用	<p>○「データの活用」の平均正答率は、全国や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○「簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率をやや上回っている。</p> <p>○●「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」設問では、全国の平均正答率を上回っているが、43.1%と低い。</p>	<p>・必要な情報や数を選択し、言葉と数を用いて記述する問題を意図的に授業に取り入れ、思考力・判断力・表現力を高められるようにしていきたい。</p> <p>・日常生活や他教科でも、社会の事象を対象にしたデータを整理・分析する活動を積極的に取り入れていく。</p>

宇都宮市立城東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	56.9	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	62.1	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	58.1	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	76.4	67.9	66.7
観点	知識・技能	65.8	57.5	55.3
	思考・判断・表現	66.7	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○この領域の平均正答率は56.9%で、市の平均正答率を8ポイント以上上回っている。 ○「乾電池のつなぎ方」に関する知識を問う設問では、全国の正答率を18.7ポイントと大きく上回り、高い正答率が見られた。 ●「身の回りの金属」についての設問では、平均正答率が18.5%と低い。金属の性質についての理解に課題がある。	・実験の方法を発想し、表現する力を伸ばしていくために、実験を行う際に、それぞれで考案した方法を発表し合い、質問や意見を交換する時間を設けるようにする。他者の視点を取り入れることで、より客観的で正確な表現へと自ら改善する力を養っていく。実験を通して分かったことを、表現する活動を増やすことで、思考力や表現力を高めることができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○この領域の平均正答率は62.1%で、全国や市の平均正答率を9ポイント以上上回っている。 ●「水の温まり方について実験方法」について検討する設問では、平均正答率が52.3%と県の平均正答率を0.3ポイント下回っている。	・実験結果を基に、他の条件での結果を予想し、表現する力を高めるために、観察や実験後に、予想と結果を照らし合わせ、多角的に考察する学習を強化する。友達との対話を通して、論理的な思考力を養う。また、予測や結論を述べる際、主張の後に、理由付けを明確に添えることを指導していく。
「生命」を柱とする領域	○この領域の平均正答率は58.1%で、全国や市の平均正答率とほぼ同等である。 ●「レタスの種子の発芽の結果から、問題を見だし、表現する」問題の平均正答率が38.5%と低い。	・観察結果から自ら問いを見つけられる力を養うため、児童の疑問が、これまでに学んだ知識とどう関係しているのかを意識することができるように、児童との対話を行う。これにより、疑問が知識の足りない部分、すなわち探究すべき価値のある課題であることを認識できるようにする。
「地球」を柱とする領域	○この領域の平均正答率は76.4%で、市の平均正答率を8ポイント以上上回っている。 ○「水の結露」に関する知識を問う問題で、全国平均を大幅に上回る高い正答率であった。 ○「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方」を調べる実験で、条件を正しく設定する方法を記述する問題では、全国の平均正答率を8ポイント以上上回っている。	・問題を解決するための適切な観察・実験方法を検討し、表現する力を身に着けるために、複雑な装置の組み方や手順の流れを考える際に、図、フローチャートなどの非言語的な表現を積極的に用いて整理させる経験を積ませることで、視覚的なツールを適切に選択し、組み合わせる能力を育成することで、表現の正確性を高めていく。

宇都宮市立城東小学校 第6学年 児童質問紙

- ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの
 ●課題が見られるもの
- 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を12.3ポイント下回っている。自己肯定感が低下していると考えられるため、一人一人の長所を教師が認め、声掛けを行ったり、児童同士で伝え合えるような場面を設定したりして、自己肯定感の向上を図る。
- 「読書は好きですか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を4.9ポイント上回っている。また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日どれくらいの時間、読書をしますか」の質問では、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「2時間以上」と回答した児童の割合が、いずれも全国の平均を上回っている。読書に親しんでいる児童が多くいることが伺える。引き続き読書に親しみ、読書をする習慣が定着するように、わくわくブック隊などの読み聞かせの時間などを利用し、様々なジャンルの本に触れる機会を作ったり、お勧めの本を紹介し合う時間を作ったりして、読書の励行をしていきたい。
- 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童の割合を9.3ポイント上回っている。また、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を5.3ポイント上回っている。これらのことから、ICT機器を利用して学習するための素地が養われていることが伺える。これからも引き続き積極的にタブレット端末を利用した学習を進めていきたい。
- 「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を13.4ポイント下回っている。図表の見方を指導したり、理科や社会の学習などで文章を読む際に文章と図表のつながりを意識させたりするなど、教科横断的に目的意識をもって学習する習慣を身に付けさせたい。
- 「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全

宇都宮市立城東小学校（第6学年）
 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、各学年で、漢字や計算を中心とする基礎的基本的な内容について、年間を見通して計画的に練習や確認などを行い、定着に努めている。また、朝の学習（パワーアップタイム）を活用して、学年や学級で、プリントやドリル学習などを計画的に実施している。	国語では、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率は、全国や県、市の平均正答率をやや上回っている。 算数では、「知識・技能」の観点で、全国や県、市の平均正答率とほぼ同等か、やや上回っている。
児童が学ぶ楽しさを味わい、進んで考える授業づくり・学びの「城東スタイル」	本校では、学びの「城東スタイル」を掲げ、学校全体で共通理解のもと、児童が学ぶ楽しさを感じながら、思考力・判断力・表現力を発揮して、主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確に示し、見通しをもって自らの課題に取り組んだり、友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	「思考・判断・表現」の観点で、全国や県、市の平均正答率と比べて、国語も算数もほとんどの設問で上回っている。 質問紙では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童は、全国や県の肯定的割合をやや下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」記述式の設問で、全国の平均正答率を11.4ポイント上回っているものの、無解答率が12.3%と高く、やや課題が見られる。 算数では、「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する」設問で、全国や県、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が52.3%と低い。また、「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する」設問で、全国や県、市の平均正答率を大きく上回っているものの、正答率は43.1%と低く、無解答率も18.5%と高く、課題が見られる。 理科では、「種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、記述する」設問で、全国や県、市の平均正答率を上回っているものの、正答率は38.5%と低く、無解答率も12.3%と高く、課題が見られる。	自分の考えを図や文章で表現し、他者に分かりやすく伝える力の育成。	各教科等でめあてやねらいを明確にし、児童が自分の考えを表現したり、互いに考えを伝え合ったりする活動を多く取り入れるとに、活動の仕方を工夫し、充実した授業づくりに努める。また、授業のまとめや振り返りの場面において、学習したことをよく考えさせ、目的を意識した文章を書くよう指導を続けていく。